
暴走とストップ

優宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暴走とストッパ

【Nコード】

N5905V

【作者名】

優宮

【あらすじ】

志織は気が強くて、自分は特別な人間だと思っている女の子。

誠太は優しくて気遣いのできる女の子。

おんなじクラスの幼なじみ、志織の暴走を止めようとした誠太に待ち受けていたいじめ、でも負けなかった。それは自分がまだ幸せだったから。

志織は気の強い女の子だった。

誠太は優しく気遣いのできる男の子だった。

「志織もうやめようよ？こんな悲しいことやってもつまらないよ！」

そういった誠太はいじめの対象になっていた。

「ふーん誠太、私に逆らうってワケ？」

「逆らいはしてない！でもつまらないしもうやめよう？」

このクラスは無能や無価値と判別された者はいじめの対象となるだけだった。

いままでに対象になった人物の数は10人。

見た目はとつても仲のよいクラス。

志織を中心に物事は決まる、しかし、ほかのものは志織に逆らえず渦に飲み込まれたもの達だった。

「1つ2つ3…」

そんな掛け声と共に水がかかりそうになった。

「うわ。おい！笹倉（志織の苗字）汚いつての！」

「え？何？」

「せー（誠太のこと）大丈夫か？」

「勇……僕を庇ったら！」

「大丈夫だって！なっお前ら」

皆がうなずいていた。男子の全員が……

「皆……」

誠太と志織は幼なじみだった。

でも志織は自分が女王様、皆とは格が違うと思っていた。

幼い頃

「誠太！おんぶ、もう疲れた。」

「え〜？志織ちゃんもうちよっと頑張つてよ・・・ぼくのジューズあげるから〜」

「イヤだ、どうせりんごでしょ???」

このころは仲がよかった。でも小学生のときに大喧嘩をした、それから志織はおかしくなった・・・

「もうやめてよ！志織ちゃん！」

幸せなんだ、ぼくたちの戦いは終わってない。

志織の暴走と誠太のストップはいつまで続くのだろうか・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5905v/>

暴走とストップ

2011年10月8日23時33分発行